

No	30									
指標名	胃癌低侵襲手術率(腹腔鏡)									
定義	<p>(分子) 分母のうち、腹腔鏡手術が施行された患者数(内視鏡手術用支援機器使用を含む)</p> <p>(分母) 胃癌のUICC治療前ステージ I のうち該当する切除術が施行された退院患者数</p>									
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院</th> <th>全国中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018年度</td> <td>36.9%</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>38.4%</td> <td>22.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2018年度、2019年度における当院のデータ (全国)2018年度、2019年度に実施した病院の中央値 (2020/04/25 時点) ※他院との詳細な比較につきましては「全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業」のページをご参照ください。</p>	年度	当院	全国中央値	2018年度	36.9%	23.1%	2019年度	38.4%	22.5%
年度	当院	全国中央値								
2018年度	36.9%	23.1%								
2019年度	38.4%	22.5%								
コメント (解説)	<p>胃癌のUICC治療前ステージIに対する治療は内視鏡または腹腔鏡による低侵襲手術が行われることが多くなっています。</p> <p>大きい病変であったり、潰瘍を伴っていたり、低分化型の癌の場合は内視鏡手術の適応外となり腹腔鏡手術が行われる場合があります。</p> <p>当院の腹腔鏡手術率は38.4%で全国値よりもやや高くなっていますが、胃癌低侵襲手術率(内視鏡)58.5%と合わせると、胃癌ステージIに対する全低侵襲手術率(内視鏡+腹腔鏡)は96.9%となります。</p> <p>全国値の全低侵襲手術率(内視鏡+腹腔鏡)91.3%と比較しても良好な結果となっています。</p>									